

冊 サンプルレンズだより

5月15日に開催されたサンプルレンズ後援会総会では、会員の皆様からの会費やご寄付を職員研修や防災の備蓄品購入の費用とすることを決定しました。日頃よりご支援いただいている青木利元会長からの応援メッセージをご紹介します。



No.61 2011.7.21
発行：社会福祉法人 サンプルレンズ
編集：法人本部 事務局
〒167-0023
杉並区上井草3-33-10
03-3394-9833



「10歳を迎えるサンプルレンズ後援会」

これまでに後援会が行ってきた主な活動は、サンプルレンズの人材育成支援、善福寺への機材の寄付、サンプルレンズと地域の人たちとの相互理解を深めるためのシンポジウムの共同開催等でした。その支えとなったのは、会員の皆様の会費と寄付です。後援会を支えてくださった皆様のご芳志に深く感謝いたします。

2011年度は、後援会ができて満十歳を迎えます。これまでの私たちの活動はささやかな、しかし、こつこつと実績を積み上げる無理のない地道なものであったと思います。10年という節目の年、後援会では、過ぎ来し方を振り返り、これからの少し先の将来を見通しながら、この組織の在り方をじっくりと考える計画を立てています。

会員の皆様はもちろんのこと、サンプルレンズのスタッフの方たちや、サンプルレンズとゆかりのあ

る方がた等にもできる限り参加していただいて、後援会のあるべき姿を描いてみたいと思いますので、ぜひ大勢の方のお声を寄せてくださいますようお願いいたします。

そのような場もサンプルレンズと相談しながら作りたいと考えております。

＜サンプルレンズ後援会入会のお願い＞
地域の皆様方のご要望に添ったサービスを目指し日々努力を重ねる法人に「暖かいお心のひとしづく」をお寄せください。
個人会員：一口 2,000 円以上
団体会員：一口 10,000 円以上
同時に、ご寄付もお待ち申し上げます。

感謝録：サンプルレンズ後援会にご寄付、会費を納入くださった方々に、感謝を申し上げます。

期間：2010年4月1日～2011年3月31日まで（あいうえお順に掲載させていただきます）

ご寄付をいただいた方：大西久江様、金子功子様、栗原智様、笹原典子様、篠原ミヨ様、柴田隆雄様、杉浦光子様、杉浦幸俊様、高橋勤様、福田たま様、宮本正勝様（11名）

個人会費を納入していただいた方：青木利元様、井垣節子様、石村延枝様、伊藤弘武様、伊藤双葉様、伊藤裕子様、稲垣義伸様、井上貞子様、今井弘様、今西健二様、岩崎美穂様、岩松彰様、岩本昭彦様、内田祐介様、恵美加子様、江村三冬様、大坪幸子様、大友信勝様、大西久江様、大場栄作様、大場文子様、岡本利子様、小澤久子様、織田宏子様、金子功子様、金行直子様、亀倉正子様、川合美智子様、河周子様、河潤之介様、河邊尚之様、きくや青果店様、岸岡秀直様、岸野恵子様、北橋純子様、北村耕作様、木原幹夫様、小泉やすお様、小林五十鈴様、小林久子様、小林牧子様、小松悦子様、小松原昭一郎様、寒河江昭様、笹原典子様、佐藤洋美様、佐藤充弘様、塩谷三知様、篠田阿津子様、篠原ミヨ様、志磨威也様、志磨陽子様、清水明子様、清水わか子様、白川すみ子様、末岡浩様、杉浦光子様、杉浦幸俊様、高月三世子様、高橋史子様、滝本保子様、田寺俊治様、田寺徳治様、田寺由紀様、田邊紀行様、照沼富夫様、戸澤吉江様、中島太吉様、中田斐子、中田英美子様、中林起く代様、中村滋男様、中村夫美子様、中山直芳様、中山道子様、仁平正夫様、羽場令人様、福田恭子様、福原美智枝様、伯耆原功様、星野絵里様、前田逸子様、前田達夫様、間世田美代様、松尾廣高様、三浦あさ様、森道夫様、山内力様、山崎和一様、山崎眞美様、吉岡順一様、四ツ橋昭子様、若山大地様（計 93 名）

団体会費を納入していただいた方：杉並・老後を良くする会様、ももの会様、上井草商店街振興組合様（3 団体）

「被災地に職員が応援に行きました」

東京都社会福祉協議会より東日本大震災被災地への職員派遣依頼がありました。地域福祉の一翼を担う社会福祉法人としてできる限りの支援を行いたく、3名の職員を4月と7月に、宮城県気仙沼市の主に介助を必要とする方の福祉避難所に派遣しました。今号では、派遣した職員の感想や思いをご紹介します。

若林 研太 派遣期間:4/22~4/27
(ガンフレンズ永福支援センター介護支援専門員 副主任)

避難所の皆様はご高齢のため、「昭和三陸津波にやられ、戦争もあり、チリ地震津波にもあって、今回も津波にあった。中でも今回が一番ひどい。」と仰る方もいました。私は涙しながらお話を聴いていることしかできませんでした。派遣される前には「自分には何ができるだろう」と悩みました。悩んだ末に、「元気だけは持って行こう」と決めました。ただ、皆様に元気になっていただけたかどうかは分かりません。被災された皆様の本当の悩みや苦しみは、他人の元気でたやすく解消されるものではないと思うのです。もちろん、短い期間にも楽しいこと、嬉しいことはありました。ただ、被災地のことを思うと、未だに涙が出てきます。今も被災地の皆様が健やかに過ごされるよう、祈らずにはられません。

山下 和寿 派遣期間:4/22~4/27
(上井草園介護職員 副主任)

震災後、40日経った気仙沼で人間の強さを感じました。保育所に避難していたのは9名の高齢者。震災当日、津波に流された人・屋根で数日過ごした人・ゴミの中から発見された人・肉親や友人を亡くした人…。明るく話す会話の端々に何とも言えない気持ちが込められていました。避難所にいた男性からの一言が忘れられません。「津波がこなかったら、君に会えなかった。」。6日間の派遣期間で自分に何ができたろう？と自問自答を繰り返しました。答えは出ません。ただ、感じた「当たり前の生活を送っていることがどれだけ幸せか」ということを人に伝え、自分への戒めとして忘れたいです。

山入端 梓 派遣期間:7/2~7/8
(上井草園介護職員)

私は、気仙沼にある特別養護老人ホームに行かせていただきました。震災から4か月経とうとしている気仙沼は、少しずつ復興は進んでいるものの、まだまだ瓦礫等がある状態で、実際に目で見た被災地はとても衝撃的でした。現地のご利用者・職員は今では、食事・入浴ができて当たり前の生活に戻りつつありました。そして、笑顔が沢山溢れていたのがとても印象的でした。ご利用者から、「私たちも少しでも早く復興できるように頑張ります。あなた方も、自分の場所で一生懸命頑張ってください。」という言葉いただき、応援に行った私が逆に勇気と力をもらいました。このような経験を今後の人生に役立て、当たり前の生活を日々送ることができていることに感謝していきたいと思えます。



若林 研太
(一番左)



山下 和寿
(中央)



山入端 梓
(一番右)

「東日本大震災後の特別養護老人ホームの運営について」

3.11 の震災後、特別養護老人ホーム運営の中でも防災面について様々な部分において検証を要することが分かりました。サンフレンズでは、震災を受けて、当面の対応策としての「特別養護老人ホームでの地震発生時対応指針」を作成しました。今後の予定としては、更に詳細な対応方法について検討を重ね、遅くとも8月中には、BCP（事業継続計画 Business continuity planning）の策定を行う予定でいます。

BCPとは何？

この BCP とは経済産業省の資料をひも解くと、『事故や災害などが発生した際に、「如何に事業を継続させるか」若しくは「如何に事業を、目標として設定した時間内に再開させるか」について様々な観点から対策を講じるための計画自体を指す』とあります。

特別養護老人ホームは、被災時でも入居者がいますので事業を休止することができません。また、被災直後から地域の要援護者が来ることも想定されるため、その受け入れ体制も考えなければなりません。

従来の防災訓練計画は火災発生時や地震発生を想定したものであって、避難をする・身を守るといった目的が主でした。それと対を成すぐらいに重要なことが被災をしても事業を継続していくための計画、すなわち BCP の策定と、それに基づいた日々の訓練です。

3.11を経て得たこと

今年度の事業計画の中にある特別養護老人ホーム（上井草園・サンフレンズ善福寺）の重点目標にも BCP の策定が明記されています。実は、この目標は震災前に既にその必要性について話し合い、計画に盛り込んだものでした。その時は、まさか BCP の策定をしても、近い将来に実行をせねばならない状態になるとは思っていませんでした。しかし、3.11 を経て、BCP の策定の必要性について肌身をもって感じました。

入居者の食事を例に挙げると、まず食材の不足が起きました。そして食材を運ぶ流通も滞り、

食事を作るための燃料（サンフレンズ善福寺では厨房がオール電化のため停電時は使えません）の供給も不安定になりました。更に交通網のマヒで調理員及び職員が時間通りに出勤できないという事態が発生したのです。当たり前に供給されているものがなくなると、事業の根本を揺るがすということを思い知らされました。

BCP策定に当たり重要なこと

BCP を策定するに当たって、特に重要なことは、震災が起きた後の初動期（概ね 3 日間まで）をどう乗り切るか、です。特に夜間帯に震災が起きたことを想定した BCP は、最も困難な状況下での対応となります。朝を迎えるまでの間に、限られた夜勤職員で、どのように対応をしていくか。また、震災直後の混乱の中ですぐに 3 日間は外部からの支援は望むことができないという前提で計画を立てねばなりません。

入居者の生命を守ること、そして入居者の支援を行う職員の生命を守ること。そして、地域の要援護者の受け入れに対応していくことが「初期対応」の重要なポイントとなります。

震災直後の混乱時に地域の方々にも支援の手を広げられるのか？という疑問は当然湧いてきます。しかし、現在、上井草園・サンフレンズ善福寺は杉並区の福祉救済所として区と協定を結んでいます。地域の支えがあって成り立っている事業ですので、出来る限りの受け入れを想定しておかないと、事業そのものが成り立たなくなってしまう。その「出来る範囲」を明確に定めることが重要となってきます。

これからの見通し

そして、BCP は策定して終わりではなく、BCP を元にした訓練を行い、訓練を通して見えた改善点に対して検討を絶えず重ねていくことが重要です。

現在、管理職が東京都社会福祉協議会の BCP 研修を受けながら、実行可能な BCP を策定していますので、皆さまにも近々ご説明をする機会を設ける予定でいます。ご心配をおかけしていますが、どうぞ宜しくお願いします。

法人への寄付金および物品等を賜り、厚く御礼を申しあげます。

2011年5月1日から6月30日までにご寄付をいただいた順に掲載しております。

《寄付金》中村夫美子様・大西久江様・井出康子様・大場文子様・匿名希望2名
(寄附金のお預かり後、2週間以内に本部事務局より領収書を郵送いたします。届かない場合はお手数ですが、本部事務局までご連絡をお願いいたします。)

《物品等》佐久間千華子様・井上照美様・田中早苗様・阪下絢子様・森谷笑子様・米永行雄様・児玉久良子様・武藤時江様・健康体操宮本グループ様・斉藤八重子様・粕谷重子様・中嶋計恵様・匿名希望8名

ボランティア紹介

第47回

カラオケで元気はつらつ



<優しい笑顔の横谷サト子さん>

今回は毎週水曜日、サンフレンズ善福寺でカラオケの会の活動をしている横谷サト子さんを紹介します。

横谷さんは、子どもの頃から音楽が大好きで、音感にも優れ、音楽の先生から、その才能を見出されていたそうです。横谷さんの人生には、いつも音楽が側にあって、楽しい時、嬉しい時はもちろんのこと、辛い時や悲しい時も歌を歌うことで気持ちが癒されてきたとのこと。要介護状態となったご主人を介護している間も“歌うこと”で自分の心を励ましてきました。ご主人が入所している郊外の施設にお見舞いに行った帰り道、誰もいないバス停で、涙を堪え、小さなラジカセで曲を流しながら一人歌ったこともあったそうです。

そのような過程の中で、同じ立場である介護者の集まりに参加するようになりました。介護する側の大変さとともに、介護される側の気持ちにも寄り添ってみたいと思ったことがきっかけとなり、ボランティア活動をスタートされました。

カラオケの会では、ご利用者と横谷さんが話し合って皆で歌う曲を決めます。とくに、「川の流れるように」などの懐かしい曲が人気です。ご利用者が横谷さんの歌声に合わせて、楽しそうに口ずさみ、ご利用者が歌っている時は横谷さんが手拍子をします。横谷さんの創り出す雰囲気はとても温かくて、時間が経つのも忘れてしまうほどです。

横谷さんは自らの介護体験を通し、介護される側の精神面や体力面の事情も理解しているので、途中参加や途中退場もOK。ご利用者ひとり一人にあったペースで参加できるのも人気の理由かもしれません。「いらっしゃい!」「またお会いしましょう!」、今日も横谷さんの優しい声が響きます。これからもご利用者の生きがい活動を末永く応援してください。



<皆で歌声を響かせます>

サンフレンズだより・ホームページへのご意見・ご感想をお寄せください

本部事務局 電話 : 03(3394)9833

FAX : 03(3394)9834

担当 : 河野・中山

ホームページアドレス

<http://www.3friends.or.jp>

E-mail アドレス

kamiigusa@3friends.or.jp